

## Ⅱ 共に学び、生きる共生社会コンファレンス

in 北海道

「障害のあるひと ないひと みんなでひろげよう

北海道の社会教育」

文部科学省主催「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」  
 令和3年度共に学び、生きる共生社会コンファレンスin北海道  
 「障害のあるひと ないひと みんなでひろげよう 北海道の社会教育」 実施要項

1 趣旨

平成26年の障害者権利条約の批准や平成28年の障害者差別解消法の施行等も踏まえ、学校卒業後の障害者が生涯を通じて学び続けられる社会、共に学び、生きる共生社会の実現に向けて、障害者の生涯学習の機会を全国的に整備・充実することが急務であることから、障害者の生涯学習活動の関係者が集い、研究協議等を行い、障害理解の促進や、支援者・担い手の育成、障害者の学びの場の充実を目指す。

2 開催日時

令和4年(2022年)2月5日(土) 10:00～16:00

3 会場

オンライン開催 (Zoom)

4 主催

文部科学省 北海道教育委員会

5 共催

医療法人稲生会

6 参加対象

障害当事者及びその家族、行政担当者、社会教育主事、公民館その他社会教育施設職員、特別支援学校等教職員、大学関係者、福祉サービス事業所職員、社会福祉協議会職員、企業、NPOその他関係団体に関わる者等

7 日程及び内容

	10:00	10:15	12:00	12:05	13:05	13:10	15:10	15:15	16:00
開 会	①行政説明	②全体会	休憩 <small>(カフェポッチャ)</small>	③分科会			④まとめ、閉会		

① 行政説明：「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」に係る趣旨説明

説明者 文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課

② 全体会：【事例発表】障害者のための学びの場、障害の有無によらず参加できる学びの場などの取組について

③ 分科会：第1～第5分科会に分かれ、事例発表やグループ協議を実施

- ・第1分科会 「自治体がつくる学びの場～誰もが参加できる学びの場づくり」
- ・第2分科会 「障害当事者のイベント参加報告会」
- ・第3分科会 「もやもやわくわく働くことの当事者研究」
- ・第4分科会 「生涯にわたる学びの Кейカクについて考える」
- ・第5分科会 「学生Summit 共生社会にむけて」

④まとめ、閉会

# 令和3年度 共に学び、生きる共生社会コンファレンス in 北海道

主催：北海道教育委員会 / 文部科学省  
共催：医療法人稲生会

## 障害のあるひと ないひと みんなでひろげよう 北海道の社会教育

2022年2月5日(土)10:00~16:00@Zoom オンライン開催

9:45-10:00	12:05-12:00	13:05-13:10	15:15-15:10	16:00
開場(オンライン) 開会・趣旨説明	全体会	休憩 カフェサボッチャ	第1分科会 第2分科会 第3分科会 第4分科会 第5分科会	まとめ (全体会)

### 第一部 全体会

「ともに学び、生きる 共生社会」をつくるためには、障害のあるひと ないひと 誰でも参加できる学びの場や、障害についてともに学ぶことのできる場が必要です。このような「社会教育」の場が、北海道ではすでにたくさん生まれています。各団体からの報告を聞いて参加者全員で「見える化」し、北海道の中でさらに広げるためのアイデアについて考えます。いっしょにね!文化祭、医療的ケア児写真展、たすくゼミナール、苫小牧市障がい者パソコンボランティア友の会、名寄市社会福祉協議会市民ポッチャ交流会、北海道医療大学オープンカレッジ、みらいつくり大学校 などが報告を予定しています。

### 第二部 分科会

#### 第1分科会

「自治体がつくる学びの場—誰もが参加できる学びの場づくり—」  
障害の有無に関わらず、誰もが参加できる学習機会の充実に向けた行政の取組について、教育施策・福祉施策等の取組事例の発表や意見交流を行います。

#### 第2分科会

「障害当事者のイベント参加報告会」  
障害者と共に楽しむイベントについて、参加した障害当事者の報告から工夫や改善策を学びます。

#### 第3分科会

「もやもやわくわく 働くことの当事者研究」  
「働くことの当事者研究」を行います。障害の有無によらず、働くことの当事者として、ともに学ぶことを探究します。「働く」って、「もやもや」しませんか。

#### 第4分科会

「生涯にわたる学びのケイカクについて考える」  
ともに学ぶ共生社会における「生涯にわたる学びのケイカク」とは? 障害のあるひとを取り巻く「計画」について教育や福祉の関係者と議論します。

#### 第5分科会

「学生 Summit—共生社会にむけて」  
この2ヶ月間、道内外の大学生たちがディスカッションを通して「共生社会」について考えました。その実現にむけた「アクション宣言」を共有します。

### 第三部 まとめ

第一部全体会の「見える化」を振り返り、各分科会で得た「ともに学ぶための視点」を共有します。北海道で、障害のあるひと ないひと みんなで学びの場を広げるために、私たちには何ができるでしょうか。

第1回(2019年度)、第2回(2020年度)の様子は [こちらから](https://futurecreating.net/conference/conference-5381/)

<https://futurecreating.net/conference/conference-5381/>



本企画の対象者は、障害者の学びや、障害の有無によらずにともに学ぶ場に関心のある人たちです。障害当事者やそのご家族、行政担当者、社会教育主事、公民館その他社会教育施設職員、特別支援学校等教職員、大学関係者、福祉サービス事業所職員、社会福祉協議会職員、企業、NPO その他関係団体に関わる方など、たくさんの方々の参加をお待ちしています。参加方法のご相談は、下記事務局までご連絡ください。

コンファレンス開催事務局

医療法人稲生会

011-685-2799

toseikai@kjnet.onmicrosoft.com

お申し込みは裏面をご覧ください。

# 令和3年度 共に学び、生きる共生社会コンファレンスin 北海道 参加申込書

医療法人稲生会事務局行（担当：松井、宮田）

FAX: 011-685-2798

Mail: toseikai@kjnet.onmicrosoft.com

QRコードをご利用ください

申込締切 2022年1月28日（金）

メール



<https://mailto.link/m8/45qggz>

Forms



<https://forms.gle/evMbPc312KQeXFw6>

FAXまたはメール、  
Googleフォームでお申し込みください。

ご記入いただいた個人情報は本コンファレンス以外の目的  
で使用することはありません。

フリガナ  
お名前

ご所属  
(職名)

ご連絡先

電話：

MAIL:

お住まいの  
地域

例) 北海道 札幌市

分科会

第1希望

第2希望

備考欄

- ・ お名前、ご所属、ご連絡先を記入してください。
- ・ ZoomのID・パスコードは事務局よりメールで送信いたします。  
アドレスは必ず正確にご記入ください。
- ・ 特別な配慮等を必要とされる方は備考欄にご記入ください。
- ・ 分科会については、下記の①～⑤のなかから第1希望から第2希望まで必ずご記入ください。  
なお、分科会のご希望に添えない場合がございますのでご了承ください。  
各分科会の詳細は表面をご確認ください。

① 第1分科会

② 第2分科会

③ 第3分科会

④ 第4分科会

⑤ 第5分科会

お問合せ先



コンファレンス開催事務局 医療法人稲生会

住所：札幌市手稲区前田4条14丁目3番10号 電話：011-685-2799

Mail：toseikai@kjnet.onmicrosoft.com

コンファレンスは、Zoomミーティング・ウェビナーを使用して開催します。  
使用方法等、ご質問があれば事務局までお問い合わせください。

今年度の準備の進捗や詳細については[こちらの特設サイト](#)をご覧ください →



# 「障がい 生涯学習」北広島市の取り組み

～共生社会の実現と障がい児者の学びの充実に向けて～



北広島市教育委員会 社会教育課  
主任(社会教育主事) 古内 誠也

## 北広島市について P 1

- 人口 57,726人 (令和4年1月末日現在)
- 面積 119.05平方メートル
- 姉妹都市 広島県東広島市
- 市の木、花 かえで、つつじ



本当に住みやすい街大賞2021 in 北海道

新さっぽろ <small>(札幌市東区南一条)</small>	● 新琴似 (札幌市東区)	●
西28丁目 <small>(札幌市東区南一条)</small>	● 真駒内 (札幌市東区南一条)	●
北広島 <small>(北広島市)</small>	● 手稲 (札幌市東区)	●
	● 千歳 (千歳市)	●
	● 帯広 (帯広市)	●
	● バスセンター前 (札幌市東区南一条)	●
	● 苫小牧 (苫小牧市)	●



# 北広島市について

P2



# 北広島市について

P3

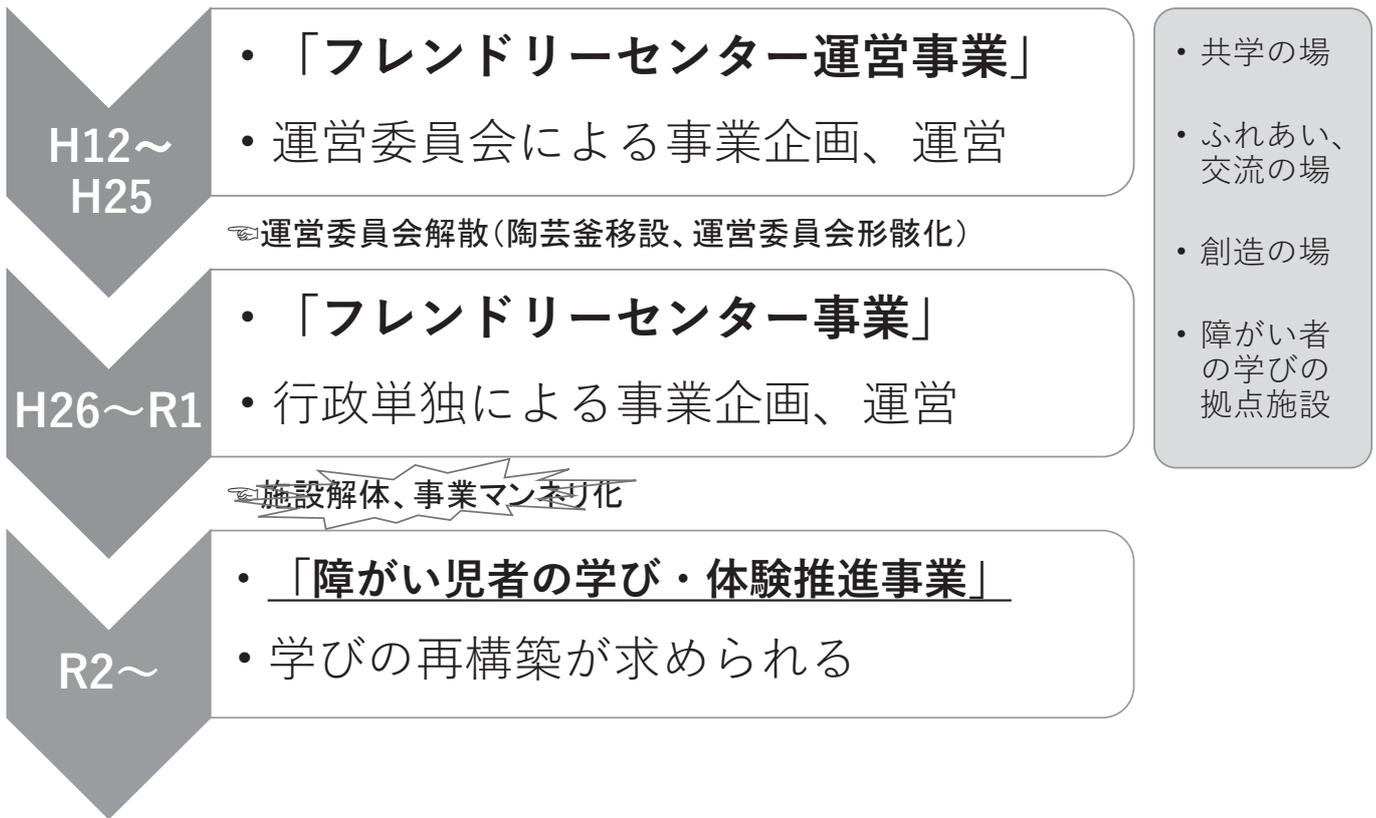
## 市内障がい児・者人数

	身体障がい	知的障がい	精神障がい	合計	総人口	総人口割合
9歳以下	9	44	6	59	3,900	1.5%
10～19歳	28	147	47	222	5,655	3.9%
20～29歳	33	128	124	285	4,329	6.6%
30～39歳	57	120	201	378	5,202	7.3%
40～49歳	116	110	267	493	8,436	5.8%
50～59歳	203	61	241	505	7,767	6.5%
60～69歳	473	46	159	678	8,891	7.6%
70歳以上	1,783	31	250	2,064	13,967	14.8%
合計	2,702	687	1,295	4,684	58,147	8.1%
構成比	57.7%	14.7%	27.6%	100.0%		

資料：身体・知的障がいは北広島市調べ（令和2年4月1日）、  
精神障がいは北海道調べ（令和2年3月31日）、  
総人口は住民基本台帳（令和2年3月末）

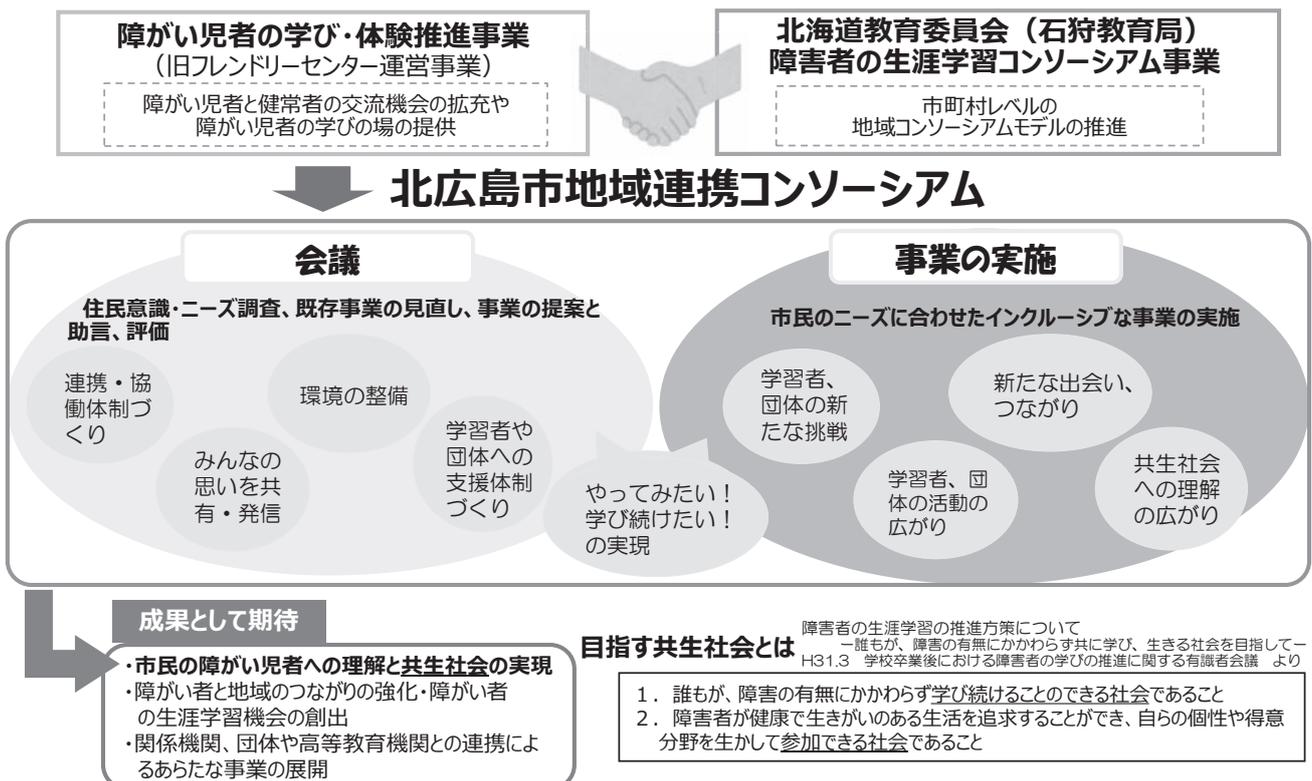
# これまでの取り組み

P4



# コンソーシアム事業とのコラボ

P5



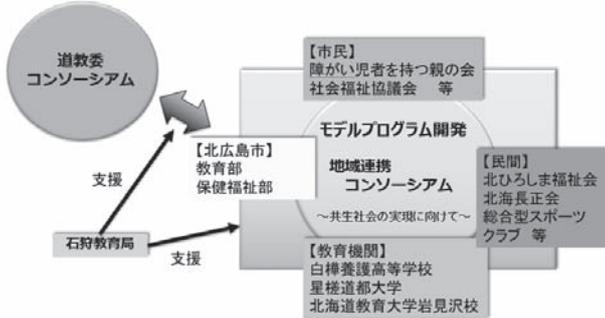
- ◆ H26年の障害者権利条約の批准やH28年の障害者差別解消法の施行等を踏まえ、学校卒業後の障がい者が社会で学ぶことができる体制の実現が必要となっている。
- ◆ 本市では、H12年より障がい児者と健常者の交流機会の拡充や障がい児者の学びの場として「フレンドリーセンター運営事業」に取り組んできた。
- ◆ 一方、事業プログラムの固定化、事業内容の改善・再構築に向け、関係機関団体等との協働の推進が必要となっている。

## 障がい者の生涯学習推進コンソーシアム事業

- ◆ 文部科学省委託事業「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業（3カ年）」を道教委生涯学習課が受託
- ◆ 行政、民間、高等教育機関等による地域連携コンソーシアムを構成しフレンドリー事業の再構築を図る
- ◆ 研修会やコンファレンス、**モデルプログラムの開発等を実施**

### 北広島市モデルプログラム開発 ～フレンドリー事業の再構築～

### <実施内容>



- (1) コンソーシアムへの参画
- (2) 地域の教育力と高等教育機関の融合によるモデルプログラム開発
  - ・地域の障がい者のニーズの把握
  - ・先進地視察
  - ・プログラム指導者等研修会の実施
  - ・障がい者向け、障がい者・健常者向けプログラムの実施・検証
  - ・成果・課題を共有（コンファレンス等）等
- (3) 社会教育のアプローチによる全体コーディネート
  - ・モデルプログラム開発に係る調整・参画
  - ・市内小中学校支援学級、近隣養護学校との調整・連携
  - ・社会福祉関係部局、団体等との連携
- (4) 石狩教育局教育支援課の協力・支援

### (成果)

- ◆ 障がい者の地域とのつながりの強化、障がい者の生涯学習機会の創出などフレンドリー事業の再構築が図られる
  - ◆ 市民の障がい児者への理解と共生社会の実現に向け、関係機関・団体や高等教育機関との連携によるあらたな事業の展開
- ※併せて、事業推進のための社会教育主事のネットワーク形成能力、関係団体との調整力、説明力等、資質・能力の向上が図られる

# 事業の位置づけ



自然と創造の調和した豊かな都市

## 1 基本構想の目的

この基本構想は、本市のまちづくりの基本的な方向性(まちづくりのテーマ、めざす都市像、基本目標、将来目標人口、ボールパーク構想<sup>※1</sup>)と連携した新たな価値の創造、土地利用、地区のまちづくり)及びこれを実現するための施策の体系からなり、令和3年度(2021年度)から令和12年度(2030年度)までの期間における総合的で計画的な行政運営を図ることを目的とした指針です。

## 2 まちづくりのテーマ

### 自然と創造の調和した豊かな都市

本市は、昭和45年度(1970年度)に広島町総合開発計画を策定して以来、「自然と創造の調和した豊かな都市」をまちづくりのテーマに掲げ、自然に囲まれた美しいまちなみの中に、市民が住み良さを実感しながら、いきいきと活動するまちをめざしてきました。

これからも、このテーマを継承し、「豊かな自然」、「利便性の高い都市機能」、「交通の要衝」などといった本市の個性を生かし、快適な生活環境の形成に努めるとともに、将来にわたって着実に成長する魅力あるまちづくりを進めていきます。

## 3 めざす都市像

将来にわたるまちづくりのテーマ「自然と創造の調和した豊かな都市」の実現に向けて、今後10年間の計画期間においてめざす都市像を、次のとおり設定します。

希望都市	だれもが希望を持って、輝けるまち 子どもからお年寄りまで多世代の方々が趣味、仕事、家族、友人などそれぞれの楽しみや喜びを持った生活を営み、すべての市民が希望を持ち、人が輝くまちをめざします。
交流都市	多様な交流が生まれ、にぎわいと活力にあふれるまち 観光、産業、教育、スポーツ、芸術文化などあらゆる分野において、国内外を問わず、多くの人々が行き交い、市民との多様な交流を創出することにより、にぎわいと活力にあふれるまちをめざします。
成長都市	未来に向かって、着実に成長するまち 緑豊かな充実した生活環境を維持・向上させるとともに、本市の歴史や様々な魅力に市民が誇りと愛着を持ってまちづくりを実践し、未来に向かって、着実に成長するまちをめざします。

※1 ボールパーク構想：市民連携プロジェクトとして、新球場地帯としたボールパークを整備することで、まちづくりの様々な分野に波及効果を生み出し、持続可能な都市構造と地域課題の解決を図る構想。



<b>第1章</b> とも歩み笑顔が輝くまち	<b>第2章</b> 学び合い心を育むまち	<b>第3章</b> だれもが安全に暮らせるまち	<b>第4章</b> 住みよい環境にかこまれたまち	<b>第5章</b> 活力みなぎる産業と交流のまち	<b>第6章</b> つながり成長するまち
<b>1 子育て支援の充実</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 子育て支援・子育て環境の充実</li> <li>2 幼児教育・保育、学童クラブの「量」の確保と「質」の向上</li> <li>3 子どもの権利擁護の推進</li> <li>4 子どもの貧困対策の推進</li> <li>5 ひとり親家庭への支援</li> <li>6 発達につながる段階からの支援</li> </ul>	<b>1 学校教育活動の充実</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 義務教育9年間の学びを支える教育活動の展開</li> <li>2 豊かな心を育む教育の充実</li> <li>3 確かな学力を育てる教育の充実</li> <li>4 健やかな体を育てる教育の充実</li> <li>5 特別支援教育の充実</li> <li>6 社会の文化・課題に対応した教育の推進</li> </ul>	<b>1 防災対策・災害復興の推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 復興まちづくりの推進</li> <li>2 防災対策の推進</li> <li>3 自主防災組織の充実</li> <li>4 治山・治水の推進</li> </ul>	<b>1 都市機能の整備</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 都市機能の整備の推進</li> </ul>	<b>1 農業の振興</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 担い手の育成</li> <li>2 農地の利用・保全</li> <li>3 都市住民との交流</li> <li>4 生産・流通の振興</li> </ul>	<b>1 市民参加・協働の推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 市民参加の推進</li> <li>2 協働の推進</li> <li>3 地域コミュニティの推進</li> </ul>
<b>2 高齢者福祉・介護の充実</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 社会参加の促進</li> <li>2 介護予防と自立の支援</li> <li>3 介護サービスの充実</li> <li>4 地域生活支援の充実</li> </ul>	<b>2 学校教育環境の整備</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 地域とともにある学校づくりの推進</li> <li>2 教育環境の整備</li> <li>3 学校ICT環境の整備</li> </ul>	<b>2 消防・救急体制の充実</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 消防体制の充実</li> <li>2 火災予防の推進</li> <li>3 救急救命体制の充実</li> </ul>	<b>2 居住環境の充実</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 住み替え支援・空き家対策</li> <li>2 公営住宅等の整備促進</li> </ul>	<b>2 工業の振興・企業誘致</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 工業団地や各地域工業の支援・連携</li> <li>2 地元企業の産業振興</li> <li>3 企業誘致の推進</li> <li>4 新たな産業集積の推進</li> </ul>	<b>2 産学官連携の推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 広域連携・官民連携の推進</li> <li>2 大学等との連携</li> </ul>
<b>3 障がい福祉の充実</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 地域生活支援の充実</li> <li>2 社会参加の促進</li> </ul>	<b>3 安心して学べる体制の充実</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 幼児教育・家庭の教育力向上への支援の充実</li> <li>2 教育相談体制の充実</li> <li>3 地域が支える健全育成活動の充実</li> </ul>	<b>3 交通安全・防災対策、消費者保護の推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 交通安全の推進</li> <li>2 防災対策の推進</li> <li>3 消費者保護の推進</li> </ul>	<b>3 公共交通の充実</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 持続可能な公共交通網の形成</li> </ul>	<b>3 商業の振興</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 商業団地や各地域商業の支援・連携</li> <li>2 創業支援と経営安定</li> <li>3 買い物環境の維持確保</li> <li>4 地域への商業情報発信とつながり形成</li> </ul>	<b>3 行財政運営の推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 市民サービスの充実</li> <li>2 効果的・効率的な行財政運営</li> <li>3 健全な財政運営</li> <li>4 公共施設の最適化</li> <li>5 組織・職員の活性化</li> </ul>
<b>4 地域福祉の充実</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 地域福祉推進体制の充実</li> <li>2 生活困窮者への支援体制の充実</li> <li>3 医療振興の推進</li> </ul>	<b>4 社会教育の充実</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 人を育む社会教育の充実</li> <li>2 学び合う生涯学習機会の充実</li> <li>3 学びと活動・活躍の循環</li> </ul>	<b>4 平和・人権尊重社会、男女共同参画の推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 恒久平和の希求と継承</li> <li>2 人権意識の啓発</li> <li>3 男女共同参画の推進</li> </ul>	<b>4 道路環境の充実</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 市内幹線道路・生活道路等の整備</li> <li>2 ポールパークに関する道徳観の整備</li> <li>3 自転車道の整備</li> <li>4 雪対策の推進</li> </ul>	<b>4 商業の振興</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 商業団地や各地域商業の支援・連携</li> <li>2 創業支援と経営安定</li> <li>3 買い物環境の維持確保</li> <li>4 地域への商業情報発信とつながり形成</li> </ul>	
<b>5 健康づくり・地域医療の充実</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 健康づくりの支援</li> <li>2 医療体制の確保</li> <li>3 国民健康保険事業の適正な運営</li> </ul>	<b>5 スポーツの振興</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 健康で生きがいのあるスポーツ活動の推進</li> <li>2 競技スポーツへの支援</li> <li>3 スポーツライフの充実と環境整備</li> </ul>		<b>5 水の供給・下水処理の充実</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 安全・安心な水の供給</li> <li>2 安定した下水処理</li> <li>3 施設の強化・計画の更新</li> <li>4 経営基盤の強化</li> </ul>	<b>5 商業の振興</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 商業団地や各地域商業の支援・連携</li> <li>2 創業支援と経営安定</li> <li>3 買い物環境の維持確保</li> <li>4 地域への商業情報発信とつながり形成</li> </ul>	
	<b>6 芸術文化の振興</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 だれもが参加できる地域文化の振興</li> <li>2 創造と交流を生む芸術文化活動の展開</li> </ul>		<b>6 環境保全の推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 温暖化対策の推進</li> <li>2 公害対策の推進</li> <li>3 自然環境の保全・環境保全意識の向上</li> <li>4 公衆衛生の向上</li> </ul>	<b>4 雇用と就業環境の充実</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 雇用機会の拡大</li> <li>2 多様な働き手への就業支援</li> <li>3 就業環境の充実</li> </ul>	
	<b>7 歴史の継承と創造</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 エコミュージアム構想の推進</li> <li>2 文化財の保存と活用</li> <li>3 新たな歴史の保存と活用</li> </ul>		<b>7 ごみ対策の推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 ごみの減量化・リサイクルの推進</li> <li>2 ごみ処理体制の充実</li> </ul>	<b>5 観光振興・シティセールスの推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 観光資源や地域人材の発掘・活用</li> <li>2 観光客の受入環境の整備</li> <li>3 観光コンテンツの創造とプロモーションの推進</li> <li>4 シティセールスの推進</li> </ul>	
	<b>8 読書活動の充実</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 図書館サービスの充実</li> <li>2 地域まるごと読書活動支援の充実</li> </ul>		<b>8 緑の充実</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 緑化の推進</li> <li>2 親水空間の保全</li> <li>3 公園の整備</li> </ul>	<b>6 交流・多文化共生の推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 関係人口の創出・拡大</li> <li>2 姉妹都市交流事業の推進</li> <li>3 国際交流の推進</li> <li>4 多文化共生の推進</li> </ul>	

## 第4節 社会教育の充実

### 現況と課題

「人生100年時代」、「超スマート社会(Society 5.0<sup>※1</sup>)」に向けて社会が大きな転換期を迎える中、より豊かに生きていく上で生涯学習の重要性は一層高まっています。市民一人一人が生涯を通して学ぶことができる環境の整備、多様な学習機会の提供、学習した成果が適切に評価され、それを生かして様々な分野で活動できるようにするための仕組みづくりなど、生涯学習社会の実現が求められています。

市民が世代を超えて互いに学び合い、教え合う相互学習を通じたコミュニティ<sup>※2</sup>の形成に向けた支援が求められています。

市民の様々な学習意欲に応えるため、学習ニーズを的確に把握し、意欲的・主体的に学習活動ができるよう、必要な情報の適切な提供に努める必要があります。また、現代的で社会的な課題に対応した学習機会や、市民個々のライフステージに応じた学習機会の充実を図るとともに、学習プログラムを工夫していく必要があります。

生涯を通じて自らの人生を設計し、活躍することができるよう、必要な知識・技能の習得、知的・人的ネットワークの構築や健康の保持・増進に資する生涯学習を推進し、学びと活動・活躍の循環を形成していく必要があります。

### 基本的方向

- 市民が学び合い、教え合う相互学習を通じ、コミュニティ<sup>※2</sup>形成に向けた学習活動や体制づくりに努めるとともに、社会教育関係団体や市民の個性ある活動を継続するため、社会教育の充実を図ります。
- 生涯における学びや現代的で社会的な課題に対応した学習、ライフステージに応じた学習など、生涯学習機会の充実や、市民の主体的な学習活動に対する支援を図ります。
- 生涯学習・社会教育を効果的に進めるため、人づくりをはじめ、学びと活動・活躍の循環の形成を図ります。

### 施策

#### 1 人を育む社会教育の充実 (SDGs: 4)

- 学びを通じたコミュニティ<sup>※2</sup>づくりを推進するため、市民による相互学習の活動を支援します。
- 地域課題の解決や地域社会の維持・向上や持続的な発展に向けた市民の主体的な学習活動を支援し、市民と行政との協働による活動を推進します。

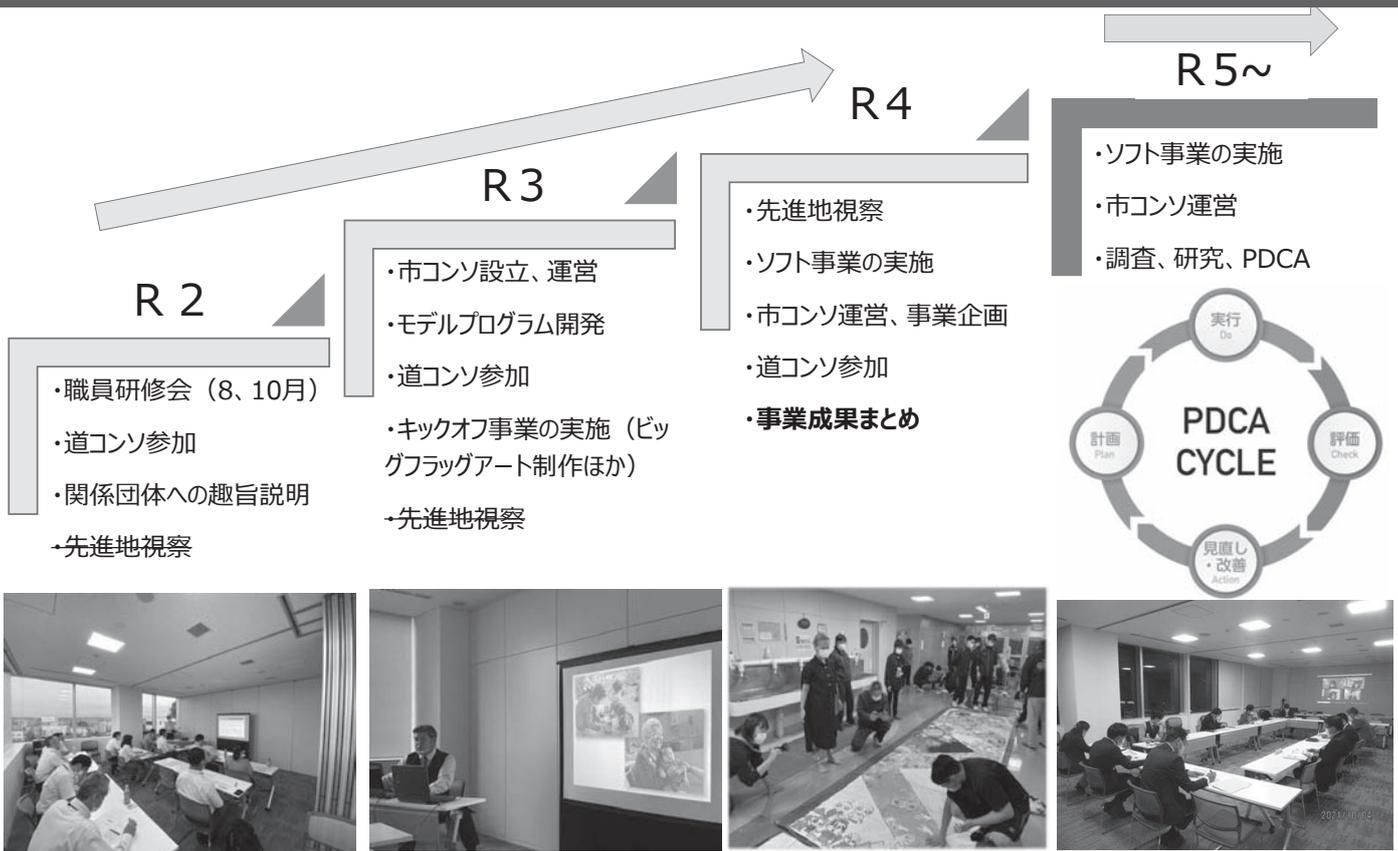
#### 2 学び合う生涯学習機会の充実 (SDGs: 4)

- 市民やサークル団体の生涯学習の成果を生かす機会の創出を図り、市民の生涯学習に対する理解と関心を深める取組を推進します。
- 市民個々のライフステージに応じた学習ニーズを把握し、多様で豊かな学習機会の提供を推進します。

#### 3 学びと活動・活躍の循環 (SDGs: 4)

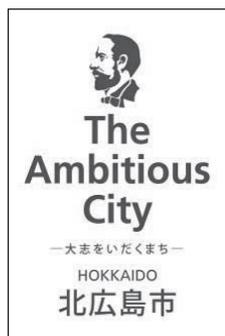
- 市民の学びを支える利用しやすい中央公民館の効果的な運営を進めます。
- レクリエーションの森の適切な維持管理を行うとともに、有効な活用方法や施設の整備について検討します。
- 社会教育関係団体等が実施する学びに関する情報の発信を通じ、学びの循環を図ります。
- 生涯学習に関わる団体相互の交流や地域間での交流を促進し、人と地域と団体がそれぞれのよさを生かして相互に結び合う「学びのネットワークづくり」の構築に向けた取組を推進します。

成果指標	現状値	目標値
「自然や地域、社会など様々な体験機会の充実」の満足度	63.8%(H30年度)	70.0%
「生涯学習活動の機会の充実」の満足度	63.3%(H30年度)	70.0%



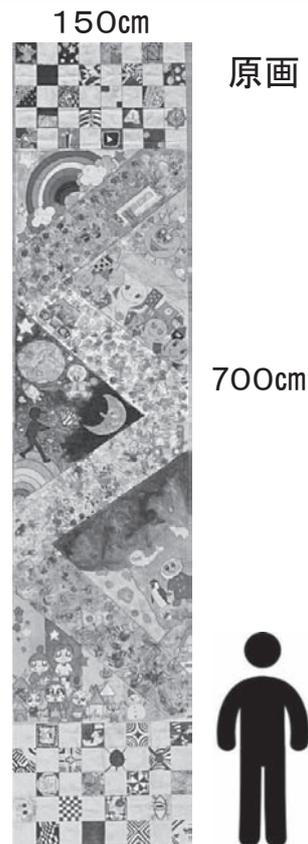
# ビッグフラッグアート制作事業

- ・市民による共生社会の実現に向けたアート作品の作成
- ・市民の共生社会実現に向けた気持ちをアートで表現、障がい児者・子ども・高齢者・大学生等 100人以上で「ビッグフラッグアート」にチャレンジ！！
- ・制作指導：Satoly (サトリー)





懸垂幕(完成版)は文字も含め長さ10mになる予定

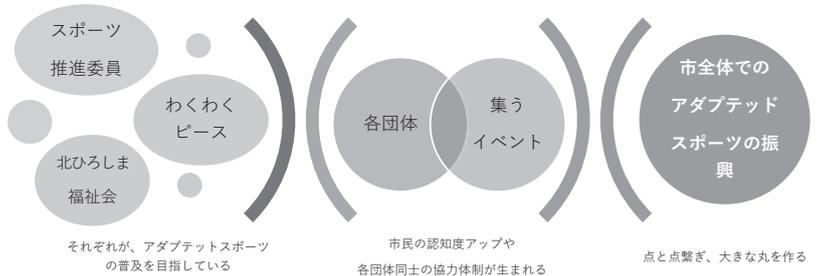


## 制作参加者（団体） 実績

日にち	曜日	時間	団体	人数	会場
11月5日	金	10:00~12:00	すみれ保育園	16人	すみれ保育園
10日	水	10:00~12:00	社会福祉協議会	12人	中央公民館
16日	火	10:00~12:00	北ひろしま福祉会	10人	
		12:30~14:30	みらい塾	5人	
19日	金	9:00~11:00	星槎道都大学	14人	"
		12:30~14:30	みらい塾	3人	
21日	日	10:00~12:00	しょうがい児者を持つ親の会	15人	"
22日	月	15:30~16:30	北海道白樺高等養護学校	12人	北海道白樺高等養護学校
12月6日	月	15:30~16:30	北海道白樺高等養護学校	50人	"
8日	水	10:00~12:00	西の里きらきら保育園	15人	西の里きらきら保育園
		13:30~15:30	地域サポートセンターともに	9人	地域サポートセンターともに
<b>8団体</b>				<b>152人</b>	



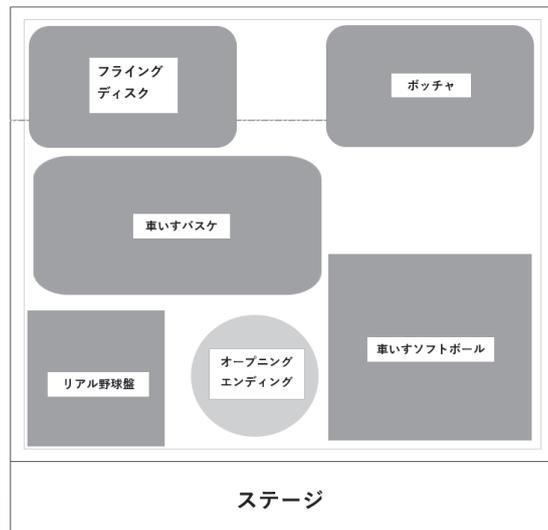
## 全市規模でのポッチャ大会 ※令和3年度はコロナにより中止



## ボッチャ大会の代替案として、アダプテッド・スポーツ普及動画作成

総合体育館メインアリーナ

- アダプテッド・スポーツの認知度向上、普及を通じた学びの機会拡充を目的に映像を作成し、市HP、市公式SNSで一般公開する。
- 札幌よしもと所属芸人2組がボッチャをメインとした様々なアダプテッド・スポーツを体験する様子を撮影
- 種目：ボッチャ、フライングディスク、車いすバスケットボール、車いすソフトボール、リアル野球盤
- 各種目の説明は、HOKKAIDO ADAPTIVE SPORTSの子ども達が行う。



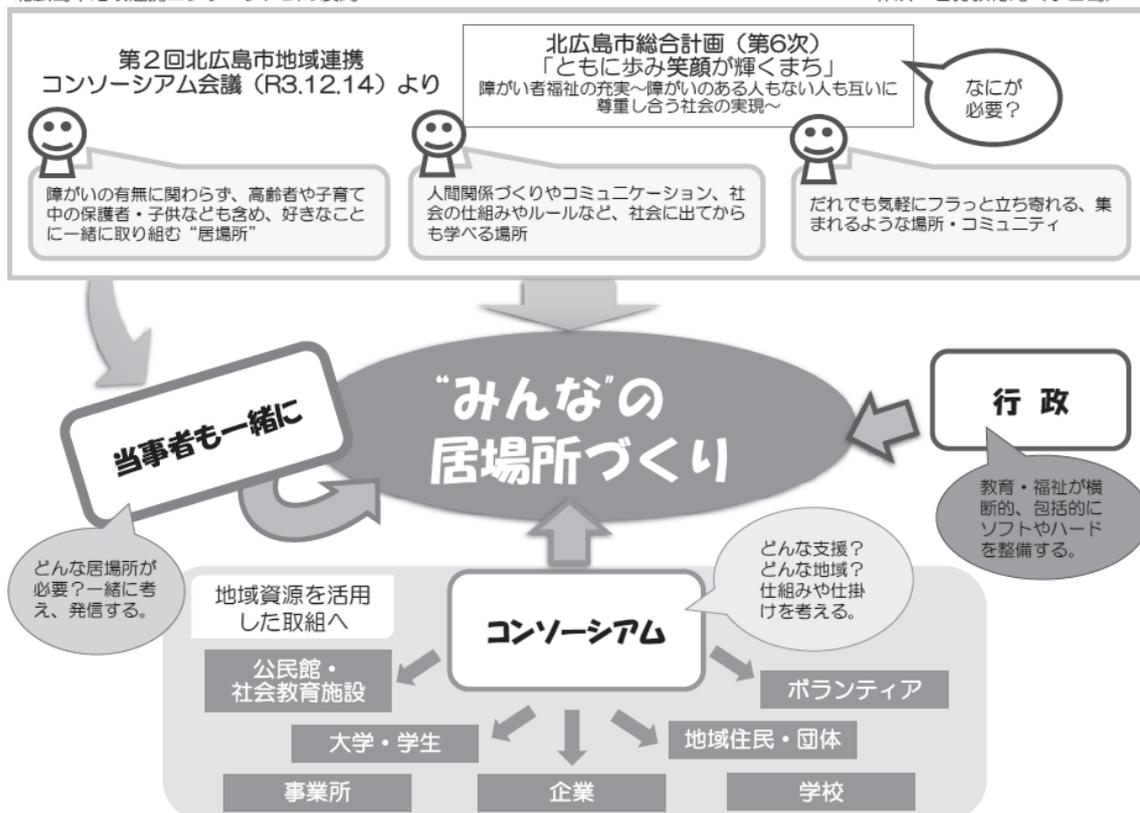
**3** すべての人に健康と福祉を

**4** 質の高い教育をみんなに

# コンソーシアムで見えてきたこと

北広島市地域連携コンソーシアムの展開

作成：石狩教育局（小田島）



ご清聴ありがとうございました。



みらい塾の子が共生社会を  
想って描いてくれた絵 <sup>19</sup>



# いわみざわ アートアカデミー

主催 岩見沢市  
令和3年度文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」

## アートアカデミー実施概要

学校卒業後における障がい者が、北海道教育大学の教員や学生と関わりを持ちながら、芸術の鑑賞、創作について学び、展示会の企画にかかわることで自己実現を図り、ひいては芸術を教わる側から教える側になることで、地域社会の中で役割を持ち、自尊心をもって自分らしく暮らせる社会の実現を目指す。

【参加申し込み数：リアル会場 32名 + オンライン13名 計 45名】

### ①芸術鑑賞学習会

教育大学岩見沢校の教員・学生らの解説により作品を鑑賞する機会を持ち、作品に込められた思いや表現の工夫など、鑑賞する楽しさを感じてもらう。

### ②創作体験・創作学習会

様々な画材を使った創作体験会を開催し、画材や画法、創作技術について学びを深める。障がいのある人とない人が一緒に作品を創作することにより、障がいへの理解を深める場とする。

### ③展示技術学習会

額装、展示技術、展示空間の作り方に関する講座を行い、作品の魅力をより際立たせる展示技術を学ぶ。

### ④展示実践学習会

習得した知識および技術により、展示会の企画運営に携わる。展示ボランティアとして北海道教育大学の学生等にも参加してもらい、障がいのある人とない人が協働する場とする。



# いわみざわ アートアカデミー

受講料  
無料  
定員30名

障がいのある人の学校卒業後の学びの場として、北海道教育大学岩見沢校の協力のもと、芸術の鑑賞・創作等について学ぶ「いわみざわアートアカデミー」を開催します。

- ① 芸術鑑賞学習会 岩見沢市公式YouTubeで随時配信
- ② 創作体験・創作学習会 11/10・11/24・12/1  
「会場参加（いわみざわ）」または「オンライン」
- ③ 展示技術学習会 12/15  
「会場参加（いわみざわ）」または「オンライン」
- ④ 展示実践学習会 12/18～12/24  
北海道教育大学岩見沢校「森の岩ギャラリー」

主催 岩見沢市  
令和3年度文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」

**① 芸術鑑賞学習会** 随時開催

作品の見どころや表現の工夫、作品に込められたメッセージなどを北海道教育大学岩見沢校の学生さん達に解説してもらい、「芸術文化を鑑賞する」ということについて学びます。

【配信予定内容】  
岩見沢市健康福祉ホール 福島正幸記念館展示作品、北海道教育大学岩見沢校sowfi-socui展示作品ほか  
※岩見沢市公式YouTubeで随時配信

---

**② 創作体験・創作学習会** 随時開催

創作することの楽しさなどを講話で学び、様々な画材を使った創作体験を通じて、画材や画法、創作技術について学びを深めます。

講師 北海道教育大学岩見沢校アートマネジメント研究室  
会場 岩見沢市生涯学習センター「いわみざわ」  
またはオンライン参加

【11月10日（水）14時45分～16時30分】  
講義 創作することの楽しさ  
実技 ペン系画材を使った創作体験  
鉛筆、色鉛筆、クレヨン、クーピー、パステル、木炭

【11月24日（水）14時45分～16時30分】  
講義 作品を世に出すことの意義  
実技 絵の具系画材を使った創作体験  
水彩絵の具、アクリル絵の具、アquare、油絵の具、日本画用の具

【12月1日（水）14時45分～16時30分】  
講義 様々な表現方法について  
実技 色々の画材を使った創作体験  
折り紙、クラフト、身近な素材を使った創作

---

**③ 展示技術学習会** 随時開催

装設や展示技術、展示空間づくりについて学び、作品の魅力を引き立たせる展示技術を身に付けます。

講師 教育大学岩見沢校アートマネジメント研究室  
会場 岩見沢市生涯学習センター「いわみざわ」  
またはオンライン参加

【12月15日（水）14時45分～16時30分】  
講義の基礎知識  
● 展示空間づくり  
● 様々な展示方法  
● 作品の魅力を引き出す見せ方

---

**④ 展示実践学習会** 随時開催

アートアカデミーの中で制作した作品等を装飾色のアイデアを活かして展示します。

会場 北海道教育大学岩見沢校「森の岩ギャラリー」  
12月18日（土）～24日（金）

**いわみざわアートアカデミー参加申込書**

参加をご希望の方は必要事項をご記入のうえ、岩見沢市健康福祉課（※窓口）にお持ちいただくか、FAXでお送りください。Eメールの場合は、メール文に必要事項を記載して下記アドレス宛にお送りください。  
FAX 0126-24-0294 Eメール fukuhik@iwamizawa.jp 参加申し込み締切日 令和3年11月2日（火）

ふりがな 氏 名	参加に当たって必要に応じて✓をつけてください。 <input type="checkbox"/> 手話通訳 <input type="checkbox"/> 筆談 <input type="checkbox"/> 点字 <input type="checkbox"/> その他
住 所	
Eメール	
電 話	
F A X	
②・③の学習会への参加方法 （どちらかに✓をつけてください。）	<input type="checkbox"/> 会場参加 または <input type="checkbox"/> オンライン参加 ※オンライン参加をご希望の場合は、ID等を後日メールでご連絡します。 なお、受講にかかる通信料等は自己負担となります。

【問合せ】 岩見沢市健康福祉部福祉課（担当：山田） ☎0126-23-4111（内線258）

## アートアカデミー開催の様子

創作体験・創作学習会<リアル会場+オンライン>  
全3回（11月10日、11月24日、12月1日）  
ペン系画材、絵の具系画材、色々な画材



北海道教育大学岩見沢校アートマネジメント研究室の三橋教授・学生に講師をしてもらい、創作することの楽しさや画材や画法について学びを深めました。

パステルなどの初めて使う画材も、学生にサポートしてもらい、ぼかしやグラデーションといった技法に挑戦しました。講義の時間中に完成しなかった作品は持ち帰って完成させてもらいました。



# アートアカデミー開催の様子

創作体験・創作学習会<リアル会場+オンライン>

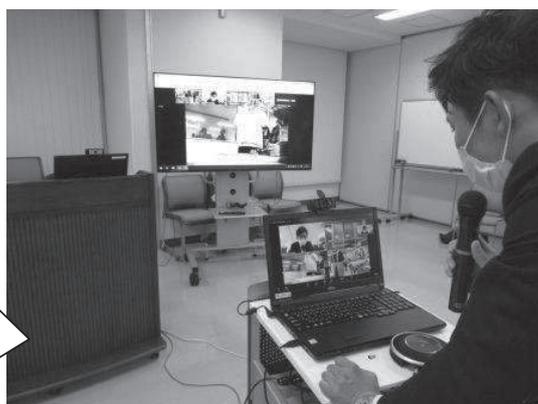
全3回(11月10日、11月24日、12月1日)

ペン系画材、絵の具系画材、色々な画材の使い方について



北海道アールブリュットネットワーク協議会さんや市内障がい福祉事業所のスタッフさんにも創作活動をサポートしていただきました。

会場の講義内容や創作活動の様子は、zoomを使ってオンラインで配信しました。zoomで作品を見せ合い交流する光景も見られましたが、画材を使うコツ等はオンラインで伝えるのはなかなか難しいものでした。



# アートアカデミー開催の様子

展示技術学習会<リアル会場+オンライン>

12月15日

額装や作品の魅力を際立たせる展示方法について



額縁の構造やなぜ額装するのか、作品や会場によって様々な展示方法・見せ方ができることを学び、自分の作品の額装に挑戦しました。

額装の仕方もzoomで配信しました。



# アートアカデミー開催の様子



## アートアカデミー展示会

12月18日（土）～24日（金）10時～16時  
北海道教育大学岩見沢校  
「森の岩ギャラリー」

参加者が創作し、自分で額装・展示の準備をした作品を教育大学キャンパス内「森の岩ギャラリー」に展示しました。会場内では、アカデミーでの創作の様子などをスライドショーにして来場者にご覧いただきました。

## 障がいのある人の学校卒業後の学びとしての芸術文化の可能性

### 【アンケートでのご意見】

「良かった」、「楽しかった」との声が多かったが、「創作の時間が短かった」、「回数をもっと増やしてほしい」との意見も。

→新型コロナ感染拡大防止の観点から、講義の時間を短めに設定したがコロナの情勢に影響を受けないようなプログラム構成の検討が必要。また、障がいの種別・程度によって、集中して受講できる時間の長さや理解度が異なるので、コース分けの検討も必要と思われる。

オンラインで講師の説明を聞いても分かりづらかったので、あらかじめオンライン用の映像を用意してほしい。

→オンライン配信の内容や方法、事前準備は今後さらに検討・研究

「芸術文化を学ぶことについて関心が高まったか」との問いにはほとんどの参加者が「高まった」と回答。

→成果を一過性のものとしないうちにも、継続的に学びの場を作っていくことが必要と考えるが、ゆくゆくは、障がいのある人が自発的に学びを深めていけるような支援の方法を検討していく必要がある。

# 第8回いっしょにね！文化祭開催報告

障がいのあるひと、ないひと、  
いっしょに楽しむ発表会

いっしょにね！文化祭実行委員会事務局  
杉澤洋輝

1

## 三角山放送局のおきて

★ステーションコンセプト「いっしょに、ねっ」

- ①伝えたいことがある人がマイクの前に座ること。
- ②お年寄り、子ども、障害のある人、LGBTの人、外国人、少数者や弱い立場の人たちの声を、決して切り捨てず、積極的に届けること。
- ③放送で嘘はつかないこと。



⇒誰もが思いを発信できる  
放送局を作ろうとした

2

# 「いっしょに、ね」の精神

★おきて②: 社会的少数者の声を、決して切り捨てず、多様な意見を積極的に届けること。

- ◇視覚障害者がパーソナリティ「耳をすませば」「音を頼りに音便り」
- ◇さっされん(地域共同作業所)の利用者が出演「飛び出せ地域共同作業所」
- ◇車いすユーザーがパーソナリティ「飛び出せ!車イス」
- ◇パーソナリティがLGBTQ「ハッピーゲイアワー」「にじいろスマイルラジオ」
- ◇英語・中国語・韓国語だけで放送「サツポロ・ナビゲーション」
- ◇札幌刑務所受刑者のリクエスト番組「苗穂ラジオステーション」
- ◇乳がん早期発見、早期治療を呼び掛け・がん患者応援番組  
「ピンクリボン」
- ◇ALSと闘病するパーソナリティによる「 のたわごと」
- ◇障がい者スポーツ、パラスポーツ情報発信番組「パラスポ!三角山」

3

## 三角山放送局は「いっしょにね」における 放送と福祉をどう考えたか・・・

- ・ 地域社会は福祉を抜きに考えられない
  - ・ 地域福祉課題を伝え、議論の場を提供していくのは、コミュニティFMの使命
  - ・ 少子高齢社会、人口減少、単身世帯急増、貧困、社会的介護、生活保護をめぐる問題、児童虐待、DV、がんサバイバー、自殺増、孤独死等
  - ・ 無縁社会から有縁社会へ
- ⇒ 誰もが日常的に伝えられる場づくりが重要

4

## ●「耳をすませば」初代パーソナリティ:

### 福田浩三さんと盲導犬のセディくん

福田浩三さんは、網膜色素変性症により40代で光を失い、開局時より番組を担当してくれました。2005年頃から盲導犬セディくんと共に放送局へ通っていました。

盲導犬育成の寄付を目的とした

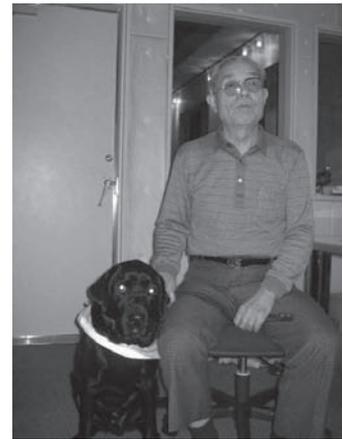
「盲導犬チャリティわんわんコンサート」

を自ら提唱し、放送局とともに3回開催、実行委員長を務め、

このイベントは、「いっしょにね！文化祭」の基礎となりました。

2013年10月逝去。番組は有志の皆さまのおかげで現在も継続し、

「いっしょにね！文化祭」の仲間たちの番組としても機能しています。



5

ねんりんピック北海道・札幌2009  
三角山放送局・FMアップル Presents

# おとなの文化祭 出演者募集!

2009年 9月6日(土) 14:00~16:00 (9月7日(日) 出演時間変更中) 会場: 北海道立総合体育センター きたえーる 屋外テントステージ

応募資格: ソロ、デュオ、グループ、団体、サークルで活動している文化で楽しむ皆様  
募集ジャンル: ●楽器(鍵盤アンサンブル、コーラス、各種など) ●演劇(落語、講談、漫才、朗読、郷土芸能、ダンス、舞踊など)

出演方法: 趣意の届出申し込み用紙に必要事項を記入し、写真と併せて三角山放送局に郵送が基本となります。

募集期間: 5月31日(土) 午後5時(日) まで

出演者の決定: 出演オーディションによる選考の上、出演者を決定します。結果は、通信各個人グループへ連絡します。各出演者を発行権限があります。

応募オーディション: 7月中旬予定

申し込み用紙は裏面へ→

2009年 ねんりんピック  
北海道・札幌2009  
「おとなの文化祭」企画制作

## 2011年 福祉作業所展示も！ 地域の芸達者大集合「おとなの文化祭」主催

地域の芸達者集合!  
「三角山 いっしょにねっプロジェクト」  
三角山一庫 若狭目公演

# おとなの文化祭 出演者・募集中!

2011年 12月17日(土) 13:00(予定)

会場: 札幌市生涯学習センター 「ちえりあ」 ちえりあホール (札幌市東区宮の森1丁目1番10号)

参加料: 「おとなの文化祭」参加費 1,000円 (入場券) 2,000円 (当日券)

申込資格: 個人・グループ、団体、サークルで活動している幅広い皆様。  
募集ジャンル: ●楽器(鍵盤アンサンブル、コーラス、各種など) ●演劇(落語、講談、漫才、朗読、郷土芸能、ダンス、舞踊など)

申込期間: 9月30日迄

申込書の提出: 趣意の届出申込用紙に必要事項を記入し、写真と併せて三角山放送局に郵送が基本となります。結果は通信各個人グループへご連絡します。各出演者を発行権限があります。

申込書の決定: 10月上旬(詳細は別途お知らせします)「おとなの文化祭」参加費は「三角山一庫」への登録が必須です。福祉作業所参加、児童福祉施設は不要です。結果は通信各個人・グループへご連絡します。各出演者を発行権限があります。

申込料: 個人・1人1,000円(1名様参加)の登録料と送料が必須となります。  
申込用紙には「おとなの文化祭」の趣意を添えてください。  
※「三角山 いっしょにねっプロジェクト」は内閣府「地域再生推進事業」の実施を目的としています。

申込用紙は裏面へ→

6



2012年 放送大学北海道学習センターと共同で  
「みんなの文化祭」を札幌・函館・帯広で開催

7

## いっしょにね！文化祭へと発展

- 2014年、第1回開催。北翔大学との共催。



タイトル：「いっしょにねっ！文化祭 in SAPPORO」

趣旨：障がい者と健常者が一緒に参加する生涯学習発表の場。音楽・舞踊などステージ発表と、作品展示や販売などを行い、文化芸術を通じて生涯学習の実現の場とする。主催：実行委員会 事務局：NPO法人三角山

8

# いっしょにね！文化祭の特徴

- 多様な人たちが同じステージでパフォーマンスを繰り広げる文化発表会。
- 理念は「いっしょに、ねっ」:テーマは相互理解
- 異なる団体やサークル間の連携ステージも活発に行われ、よりお互いを知り合う
- 当事者団体、行政、大学、医療機関、企業、NPOなど地域における多様なプレイヤーが集結。
- 北海道、札幌市などの助成、民間団体の助成、企業からの協賛金によって経費を工面。

9

## これまでの歩み

・ダンス、歌、バンド演奏などのステージパフォーマンスのほか、絵画や工芸品などの作品展示を実施。文化祭開催当初の舞台発表では、参加団体それぞれのパフォーマンス発表のみでしたが、4回目の平成29年度からはコラボレーションが可能な団体同士が共同して新たなパフォーマンスを創作、発表したり、ラストには全員参加の「合同パフォーマンス」をおこなうなどその取組は年々進化しており、当日は、参加団体や来場者間での交流がさらに深まる、きっかけづくりの場にもなっています。



10

# いっしょに、ね社会の醸成

●文化祭の開催に向けて、出演者ミーティング（事前発表会）や実行委員会を重ね、準備段階から障がいの有無にかかわらず、出演する人たちが交流を深め、一緒に楽しみ、助け合いながら作り上げています。

●障がい者の文化活動への参加意欲の喚起はもとより、健常者の障がい者に対する理解の深化、障がいを持つ当事者と支援する各団体を繋ぐ貴重な交流機会の場としても、共生社会の形成という面で大きな貢献を果たしています。

●さらには、この文化祭の来場者や地域の各種団体から、地域のさまざまなイベントやお祭りへの参加を打診されるなど、お互いを認め合う共生社会のきっかけづくりに寄与しています。



11

## 第7回・8回はコロナ対策を考慮しての実施となりました

- 第7回（2020.10.3）、第8回（2021.10.2）観客制限ありのリアル開催と、オンラインとのハイブリッド開催となりました。



12

# リモート出演で参加形態も多様に



## ニュースタイルでの「いっしょにね！文化祭」を実現

- ①リモート参加の新形態:より多くの方に参加いただけた
- ②ステージ台を設けずフラットにし、空間を広く使えた
- ③ 時間 分⇒ 時間 分となり、出演者もお客様も間延びせず集中して参加できた

13

# YouTubeでのアーカイブ視聴増

検索

その花を咲かせることだけ一生懸命

自分のウェブサ

いっしょにね！文化祭  
チャンネル登録者数 77人

ホーム 動画 再生リスト チャンネル

アップロード動画 ▶ すべて再生

第8回いっしょにね！文化祭  
【アーカイブ】  
1890 回視聴・  
4ヶ月前に配信済み

第7回いっしょにね！文化祭  
【アーカイブ】  
2116 回視聴・1年前に配信済み

第8回では「事前収録、リモートでのLIVE中継出演」がおよそ半数。収録参加ではさらに大人数での参加、工夫趣向を凝らした映像があった。通常開催よりも会場のにぎわいは減ったが、参加形態の多様化が図られ、新たな可能性がみられた。換気による休憩時間も出展・作品展示コーナーの紹介を入れ、YouTubeの進行もよかった。さらにどうつながりを広げていか、いかに持続可能な場にしていくかなどが課題です。

14

# 三角山放送局の地域メディアとしての役割

## 地域をかき混ぜ、新しい価値を創出すること

⇒ひとを放っておけない社会にするために。

「地域内の多様な組織・団体・ひとの相互連携を通して、暮らしの中に生まれる問題を取り除くための情報伝達者であり、議論の場の提供者であること」

「いっしょにね！文化祭」もその活動のひとつ



## 自分の障がいについて

カムイ大雪バリアフリーツアーセンターの三田地です。よろしくお願いします。  
自分は26年前ドライブの帰りに助手席に乗っていて交通事故で首の骨が折れて神経が切れたので  
頸椎損傷になり四肢麻痺で手足が麻痺して胸から下は感覚がなく手は動きますが両手は握力が0です。

次にイベント参加の不安ですが移動での悪路な道、段差や登り下り坂など雨の日や車いすトイレがあるのかなどです。  
誰かのサポートがないと参加できないという不安があります。



毎年行われているサンロク祭りでは露店やUD神輿を車いす紅蓮隊で行われてましたがコロナ渦で2年、開催されてません。車いす神輿は年齢、障がい有り無し関係なく誰でも参加できるようにお神輿には工夫されてます。世界に一基しかないUD神輿です。お神輿には車輪がついていて車いすユーザーや視覚障がいの方でも段差や坂道を介助してくれるので一緒に担いで楽しめるイベントです。露店ではチーム紅蓮の露店で焼き鳥やビールなど販売をして賑わいました。サンロク街周辺のホテルではトイレを使わせていただき良かったです。



相田奈美(27歳) 病名:骨形成不全症(骨が弱くて折れやすい病気)  
小さい頃は外出も、あまりできずに過ごしてきました。



さんろくまつりに参加した時は、いろいろな方と交流をしました。初めて行った時は人混みに驚き、歩いている人の足を車輪で轢かないかドキドキでした(笑)



旭川北彩都ウォーキングの集い  
自然を感じながら仲間達とお散歩しました。外なので、砂利道、段差などはボランティアの方などに押しってもらったりしました。



雪あかり、とても寒いですが(笑)冬しか楽しめない、味わえない景色や楽しさもあります！真冬こそ出歩くのが厳しい車いすユーザーですが、冬だからこそ、アクティブにイベントにも参加していきたいなと思います！

### ユニバーサルベットとは



子どものおむつ替えだけでなく、高齢者、障害者等を含む、より多くの方が共用でき、多目的に利用できる大型ベッド・大人用ベッドのことです。大きい施設に車いすトイレが2個あった場合、一つだけユニバーサルベットが置いてある事が多いです。

# 車いすから見る イベント参加

堀楓香

## 自己紹介

堀 楓香  
北海道札幌市在住。小さい頃から  
ずっと地域のなかで育ってきた。  
電動車椅子ユーザー。音楽と洋服が大好き。  
24時間介助を受けながら、一人暮らしを  
満喫している。  
好きな服を着て出かけるのが楽しみ。  
「全力で楽しく！」をモットーに生きている。



私は  
ライブ参戦  
トークショー  
演劇  
イベントに参加することが大好き！

しかし  
イベントに参加する際、会場によって  
参加しづらい環境がある。

例えば

- ・入口に段差がある
- ・イベントによって  
介助者の料金もかかる  
(自己負担)
- ・一人で参加した際の  
サポート拒否

私がイベントに参加するときの流れ

- 運営側に電話する
- 車いすと知ると慌てる
  - 一人で参加と話すと
  - サポートできないと言われる
  - 承諾してやっとな参加できる

障がいがある人が参加することは  
運営側にとって前提にない！

## そのため、 参加しづらくなる当事者もいる



私がイベントに参加して感じたことは…

### 嬉しかった対応

- ライブに参加した際、
- ・会場スタッフがグッズを買うのを手伝ってくれた
  - ・入口に2段の段差があったが、躊躇せず車いすをおろしてくれた
  - ・何回かライブに参加していたため、顔を憶えていてコミニケーションが円滑に進んだ

何度も参加して  
顔なじみになると、  
相手の“緊張感”が  
和らぐ？

### もやもやした体験

- トークショーに参加した際
- ・車いすと伝えた時に過激に配慮しなければならなないと思われた
  - ・介助者が付き添わないと伝えると、スタッフはサポートできないと言われた
  - ・運営側の配慮が少なかった
- (サポート体制が必要だと思ったのが、同じ会場にいた友人のそばに席を用意しますか？と提案された)

↑友人は別の人とイベントに参加していた  
同じ会場にいるとはいえ、それぞれの楽しみ方がある。  
友人だから隣にいないといけなないとは限らない。

### なぜ一人で参加するのか？

ライブ、トークショーは  
介助者分の費用がかかる

一方、美術館や  
博物館は  
介助者無料または  
割引がある

この違いは  
何なのか？

介助者分の料金がかかるとか、かからないかは主催者側の判断が多い。定まっていない。



お互いに事情を知ること、  
捉え方が変わる

#### 当事者側の視点

- ・介助者は自分のサポートする役割  
2人で1人分と考える

#### 主催者側の視点（予想）

- ・同じ空間、同じ物を見てい  
るから1人のお客様として見  
ている
- ・2人分の料金を取る

一人で参加した際、「手伝ってほしい」と声をかけられても身構えないでほしい。身近な人の落とし物を拾う感覚で！

障がいがあっても娯楽を楽しみたい！  
でも毎回2倍の料金がかかると生活に響く。  
どうすれば良いのか？

障がいがある人がイベントに参加する、かもしれない  
ということが前提にあれば  
もっととスムーズに参加することができる！

そのためにも、話し合いを重ねていき  
当事者がイベントに参加しやすい環境を  
整えていく必要がある

介助者分の料金を負担してくれる制度  
が欲しい



# 生涯学習における「わたしとみんなの しょうがい学習ケイカク」の可能性

2022.2.5

ともに学び、生きる 共生社会ブロックコンファレンス in 北海道

第4分科会 生涯にわたる学びのケイカクを考える

みらいづくり研究所 所長／医療法人稲生会 理事長 土畠智幸

brotom1977@gmail.com

## 本人のニーズを踏まえた、学びに関する相談支援体制づくり

H31.3 障害者の生涯学習の推進方策について 第3章 障害者の生涯学習を推進するための方策 4. 障害者の学びを推進するための基盤の整備

- 特別支援教育を受けている児童生徒については、在学中は学校において**個別の教育支援計画**が作成される。卒業後も生涯にわたる学習支援がなされるように、個人情報保護の観点に留置しつつ、**個別の教育支援計画**を進路先の企業や福祉施設等へ適切に引継ぎ、活用していくことも重要である。
- 平成30年度の障害福祉サービス等報酬改定にあわせ、障害児相談支援については（中略）**教育機関等の職員と面談**等を行い、必要な情報提供を受け協議等を行った上で**サービス等利用計画**等を作成した場合に、加算が行われることとなった。このことも契機として、**在学中から**教員が福祉の相談支援に携わる職員との連携を強化し、**サービス等利用計画**作成などの障害福祉サービスの利用の流れについて、教員や本人・保護者等の理解を深めていくことなども期待される。

## 2つのカリキュラム観の比較

Macfarlane (1978) による成人識字教育に関する分析

	伝統的カリキュラム観	学習者中心カリキュラム観
プロセスにおける学習者の役割	外部から定式化されたことや外的ニーズの受動的な受け手	自ら最終目標を設定していく能動的な参加者
識字獲得のプロセス	技能や進歩の段階に応じた階層的なもの	全体的で、課題中心的なもの
学習者についての成人教育テューターの見識	収奪され、ハンディキャップをもつ（それゆえに劣位の）存在	失敗を非難されることのない対等な存在
学習者の自己イメージに与える影響力	相対的に重要度が低い。技能の進歩という副産物がある	意図的に自己イメージが高められる
成人教育テューターに対する学習者の見方	「自分を矯正してくれる専門家」	「自分が問題を解決するのを助けてくれる友人」
危険性	依存性が強くなる。技能を実生活に転移することによりかなり懐疑的である	学習者や学習体系などの概念が崩れ、進歩の判断基準が不明瞭になる

ピーター・ジャーヴィス著、渡邊洋子／犬塚典子監訳. 成人教育・生涯学習ハンドブック. 明石書店, 2020, p.337表



## わたしとみんなの しょうがい学習ケイカク

- 2021年10月～ 試行
- 対象者（協力者）：みらいつくり哲学学校のレギュラー参加者のうち5名
- 形式：Googleドキュメント
- 記載内容：①わたしのこと（普段の自分、仕事、通ってきた学校など）、②みらいつくり大学で定期的に参加している講座と参加開始時期、③わたしの生涯学習の歴史、④いまの興味関心、⑤いま気になるキーワード
- 活用方法：1人1ドキュメント、本人（わたし）がケイカクを記載、追記していく。他者（みんな）がコメントに入力、それに対して本人や他のみんなが返信していく。ドキュメントにコメント・返信が追加されたときはGメールに転送される。


  
**わたしとみんなの生涯学習ケイカク**

わたし：土島智幸

ケイカク開始日：2021年10月24日

わたしとみんなの生涯学習ケイカク（みんなはコメントに追加をお願いします）

わたしのこと（首段の自分、仕事、通ってきた学校など自由に書く）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療法人稲生会：理事長として運営・経営。臨床医としてときどき訪問診療</li> <li>・北海道教育委員会／札幌市教育委員会 医療的ケア指導医；北海道立の特別支援学校、札幌市立の特別支援学校および地域の小中学校を巡回指導</li> <li>・みらいつくり研究所所長；みらいつくり大学のオンライン生涯学習活動の企画運営</li> <li>・北海道科学大学客員教授；2020年度～理学療法学科・診療放射線学科合同の「生命倫理学」を担当</li> </ul>	
みらいつくり大学で定期的に参加している講座と参加開始時期	
<input type="checkbox"/> 哲学学校（運営担当） <input type="checkbox"/> お手話べり（運営担当） <input type="checkbox"/> アイヌ語講座（運営担当） <input type="checkbox"/> 読書会 <input type="checkbox"/> 映画同好会 <input type="checkbox"/> THIS IS US同好会（運営担当） <input type="checkbox"/> 宗教学講座	
歴史	日付／年度 わたしの生涯学習の歴史
	1997-2002 北海道大学 医学部

**和** 和田敦 11:27 11月1日 ✓

医学・医療に特化した学問ですか？興味深いです。

**T** Tomoyuki Dobata 14:05 11月1日

「生命倫理」は、安楽死・尊厳死とか、人工妊娠中絶とか、生殖医療とか、「生命」に関わる「倫理」（どのようにすべきか）を考える科目で、医療系の学部では必須科目になっていることが多いです。他に「医療倫理」というのが別の科目になっていることもあって、そちらは治療とかに関係する内容とか、医療者－患者関係とかに関する内容が多いですね。

		人新世の「資本論」（斎藤幸平）を読む
		「資本論」（六月書店）「マルクス資本論」「マルクスとエコロジー」（佐々木隆治）「大洪水の前に」（斎藤幸平）を読む予定
		「資本論を読む」に参加
<b>キーワード</b>	<b>日付け</b>	<b>わたしがいま気になるキーワード</b>
	2021.10.29.	〈コモン〉と〈コミュニズム〉・「集団移転」
		〈アソシエーション〉・「小泉」・「シン・エヴァ第三村」
		マルクスとエコロジー・「物質代謝」

ここ、悩んでます…。『存在と時間』の続きとしての『現象学の根本問題』（木田元訳）をやってもいいのかも…と…。『存在と時間』は「ただいまハイデガー」でもやっているの。

**和** 和田敦 14:40 11月24日

私、木田 元さんの（俄か）ファンです？！？ので木田 元さんが「『存在と時間』の構築」で未刊部（本編）を見通していたってこと、気にしていました。『現象学の根本問題』は、知識ゼロですけど「『存在と時間』の続き」ってフレーズには、反応してしまいます。「岩波」で別の景色が見られるかも？！って期待もありますが、

**T** Tomoyuki Dobata 12:19 11月24日 ✓

これ、いつか詳しく聞きたいです

**和** 和田敦 14:40 11月24日

哲学学校していると、「集団移転」に「マルクス（資本主義）」が絡んで、今度は「古代ギリシア」の「ヘレニズム（グローバル化）」が絡んで来て、面白くてしょへがない!! デス。

4 通の返信をすべて表示します

**和** 和田敦 8:35 11月25日

「人生の授業」入手してしまいました。。古代ギリシア・ローマ時代の奴隷の概念が変わりました。1960年の映画『スリレタカス』観なおしたら面白かったです。（けど休憩アリの3時間、）

Alt+/

興味関心	日付け	わたしのいまの興味がある分野
	2020.6~	スマートホーム化計画 (一通りできた)
	2020.6~ 2021. 2	料理・お菓子作り (一通り作って飽きた)
	2021. 1	3Dプリンター買った
	2021.3~	化粧の仕方を模索 (介助者への指示の難しさ・自分の思い通りにならないレベルの高さ・介助者の手技によるクオリティの差・自分も理想とする方向性が分からず停滞中。純粋に時間もなく面倒くさいもある)
	22.1	小さくて使いやすいマウス探し、ゲーム、アニメ、漫画、イラスト、ドラマ
キーワード	日付け	わたしがいま気になるキーワード
	2022.1.12	マイクロアグレッション
		障害、多様性、共生社会、アライ、生産性
		自己肯定、自己肯定感
		支援、支援者と当事者の関係性

**Tomoyuki Dobata**  
8:48 1月18日

1日3食ずっとやってたら確かに飽きるかもね (笑) 「又ニユー考えるのめんどくさいからヘルパーさん考えて下さい」とかは無しなの？

**Ami**  
14:19 1月18日

ありだしそうしている人もいますみたいですが、介助者が冷蔵庫の中身の把握するところから始まり、また新たなコミュニケーションの手間 (このいい方は語弊もありますが) が増えるのが面倒で、やってないです。私の冷蔵庫は、決まったメンバーしかなくて、何かを作ってもらうのは難しいかもしれませんが (笑) 常備してる作り置き冷凍か、冷凍食品か、魚焼くかの選択肢から選ぶことで落ち着きました。  
一冊を表示

**Tomoyuki Dobata**

ニユーを検索 (Alt+/)

ケイカク開始日: 2021 年 10月 20日

わたしとみんなの生涯学習ケイカク (みんなはコメントに追加をお願いします)

わたしのこと (普段の自分、仕事、通ってきた学校など自由に書く)

30代!

みらいつくり大で定期的に参加している講座と参加開始時期

哲学学校 2020年10月

歴史	日付け	わたしの生涯学習の歴史
	2009	修士課程修了
	2009-2015	おもに倫理, 論理への関心から哲学に関心を持つ
	2015-	哲学カフェ, 死生学カフェ, 哲学カフェ@富士 参加, 世話人になり, 対話的探究について学びはじめる.
	2016-	静岡大学竹之内研究室ゼミに出席しはじめる
	2016.4.16-	友人との輪談会開始

**Tomoyuki Dobata**  
15:42 1月29日

密かに追加されてた! めっちゃウケました(笑) それにしても、哲学学校始めて以来の衝撃だったな...

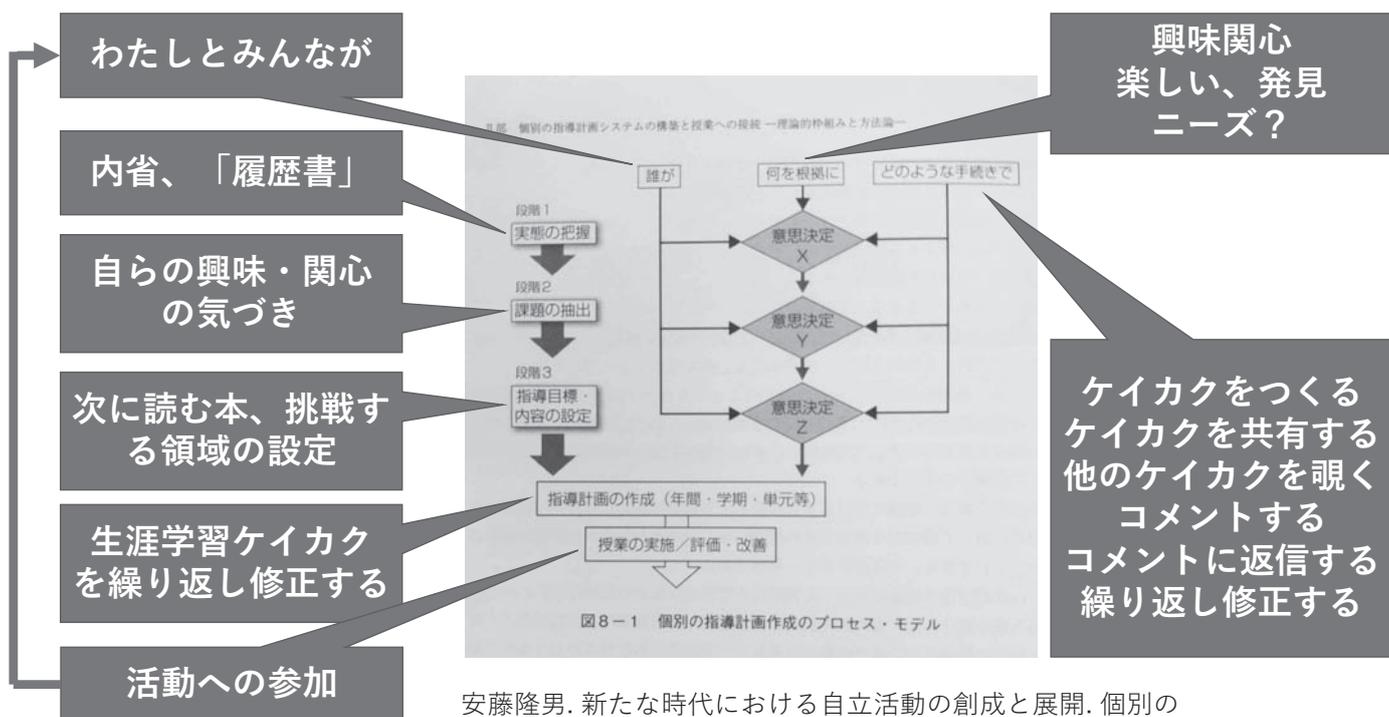
# 参加者の感想

## 【良い点】

- 他の人の興味関心を知ることができて面白かった
- 他の人からのコメントがつくと嬉しかった
- 人のケイカクを覗くのが面白い
- 「プライベートな学習」を共有。「見られるプレッシャー」を楽しむ
- 自分の内省のためのツールになった。「学びの履歴書」という感じ
- 「新たなSNS」という感じ
- 独学では難しいことも他の人と一緒に学べるという感覚がある
- ケイカクによって思いもしなかった学びに取り組むことになるなど、計画外のことがたくさん起きた

## 【課題と展望】

- 計画をつくるのが強制されるとよくないと思う
- 知らない人のケイカクをどう見るようになるのか興味がある
- 重症心身障害者など言葉を用いることが難しい人はどうするか



ともに学び、生きる 共生社会ブロックコンアレンス in 北海道 2021

全体テーマ：「障害のあるひと ないひと みんなでひろげよう 北海道の社会教育  
第2部 第4分科会 生涯にわたる学びのケイカクを考える

## 『福祉における個別の支援計画』

令和4年2月5日(土) 13:00-15:00

相談室 あんど 管理者  
作業療法士・社会福祉士  
伊西 夏恵



## 話題 1.

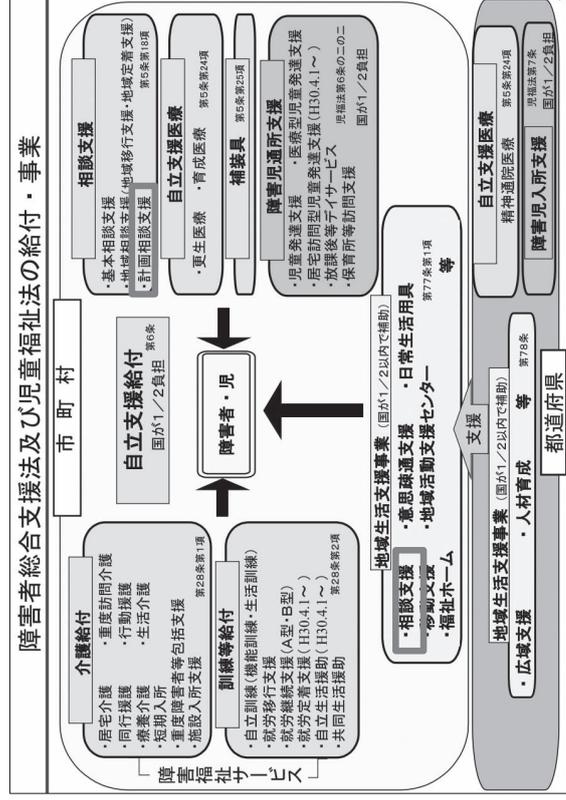
### 1.福祉の計画 障害福祉サービスにおけるサービス等利用計画に ついて

### 2.医療の計画： リハビリテーション実施計画について

### 3.教育・医療・福祉の計画 比較と概観

## 本日の話題

- 1.福祉の計画  
障害福祉サービスにおけるサービス等利用計画  
について
- 2.医療の計画：  
リハビリテーション実施計画について
- 3.教育・医療・福祉の計画 比較と概観



障害福祉に  
関する制度  
沿革・概要  
参考資料 3  
厚生労働省

# 福祉のケイカク サービス等利用計画(案)

サービス等利用計画案・障害児支援利用計画案（計画様式1-1）

利用者氏名 姓 名	2022年1月24日	利用計画案作成者 姓 名	相談支援事業所名 相談室 ありと
利用開始日	2022年1月18日	計画作成担当者名	伊西 要一
利用終了日	2022年1月18日	利用者の年齢(年)	08歳07ヶ月
利用期間	1年	利用者の性別	男
利用の意向	①生活に対する意向、援助方針	その他( )	その他( )
利用内容及びその意向	本人家族に過度な負担がかかることなく、安心して在宅生活を送る。		
具体的な援助方針	小学校入学前後の生活を整えるための指導を行います。		
長期目標	小学校入学後の生活に少しずつ慣れる。		
短期目標	訪問教育と放課後等デイサービスの利用を開始する。		
③モニタリングの期間	口毎月実施	支給期間開始月から か月	
④3ヶ月ごとに1回実施			
作成日	令和 年 月 日	作成者	担当
作成場所		作成者印	担当印

- 利用者及びその家族の生活に対する意向
- 総合的な援助の方針
  - ・長期目標
  - ・短期目標

※札幌市が用意する様式有。  
札幌市HPからダウンロードできる。

※この様式を使用しなくても可。

※本人と家族の意向を聞いた上で相談室が作成。内容説明後に同意署名をもらい役所への提出が必要。

## 話題 2.

- 福祉の計画  
障害福祉サービスにおけるサービス等利用計画について
- 医療の計画：  
リハビリテーション実施計画について
- 教育・医療・福祉の計画 比較と概観

# 医療のケイカク 外来リハビリテーション実施計画書

外来リハビリテーション実施計画書

利用開始日	2022年1月18日	利用計画案作成者	相談支援事業所名
利用終了日	2022年1月18日	計画作成担当者名	伊西 要一
利用期間	1年	利用者の年齢(年)	08歳07ヶ月
利用の意向	①生活に対する意向、援助方針	利用者の性別	男
利用内容及びその意向	本人家族に過度な負担がかかることなく、安心して在宅生活を送る。	その他( )	その他( )
具体的な援助方針	小学校入学前後の生活を整えるための指導を行います。		
長期目標	小学校入学後の生活に少しずつ慣れる。		
短期目標	訪問教育と放課後等デイサービスの利用を開始する。		
③モニタリングの期間	口毎月実施	支給期間開始月から か月	
④3ヶ月ごとに1回実施			
作成日	令和 年 月 日	作成者	担当
作成場所		作成者印	担当印

①家族・本人の要望

②心身機能・構造(睡眠リズム、視覚機能、変形・拘縮、筋、呼吸機能面、疼痛の有無など)

③活動(認知機能、コミュニケーション、姿勢の変化・保持、移動、セルフケアなど)

④参加(学校、遊び、余暇活動など)

⑤環境因子(家庭構成、家族、友人、学校関係者、医療・福祉サービスと関係者、福祉用具など)

⑥リハビリテーション目標

⑦リハビリテーションプログラム

⑧前回計画書作成時からの変化・改善等

※「本人と家族への説明」の後、「ご本人(家族)サイン」説明者サインが署名する。  
※作成の必要有。提出の必要なし。

## 話題 3.

- 福祉の計画  
障害福祉サービスにおけるサービス等利用計画について
- 医療の計画：  
リハビリテーション実施計画について
- 教育・医療・福祉の計画 比較と概観

## 教育・医療・福祉の計画 比較

分野	計画	バックグラウンド	モデル	記載項目
教育	個別の教育支援計画		モデル	※本日の他発表を参照
医療	リハビリテーション実施計画書	作業療法士	医学モデル 社会モデル	①家族・本人の要望 ②心機能・構造 ③活動 ④参加 ⑤環境因子 ⑥リハビリテーション目標 ⑦リハビリテーションプログラム ⑧前回計画書作成時からの変化・改善等
福祉	サービス等利用計画	社会福祉士	社会モデル	①利用者及びその家族の生活に対する意向 ②総合的な援助の方針

## 教育・医療・福祉の計画 横断的な概観

分野	計画	作成のポイント (発表者主観)
教育	個別の教育支援計画	※他の発表者の意見をお聞きたい
医療	リハビリテーション実施計画書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記載する際、<b>主語に私(セラピスト)と本人(患者)</b>が混在してしまう。</li> <li>・近年、<b>ICF・社会モデル</b>の考え方がとられるようになり、<b>パターナリズム</b>に陥らぬよう、使役(～させる等)の表現を避けるようになった。</li> <li>・<b>デマンドとニーズの不一致</b>に時折悩み、本人のための計画を作成するかセラピストのための計画を作成するかで葛藤することがある。</li> </ul>
福祉	サービス等利用計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画に記載された文章の主語は、あくまでも本人(よって作成者は本人)になりすまして記載する)。<b>エンパワメント</b>の視点。</li> <li>・<b>自己決定を尊重</b>し、<b>デマンド</b>が<b>ほぼニーズ</b>になる。</li> <li>・サービス等利用計画(案)の提出で、障害福祉サービスの支給が決定する。つまり、計画作成と行政への提出が、サービス受給における義務。</li> </ul>